

# 紅梅會會報



第 92 号

## 会長あいさつ

52 回生 廣瀬 千也子



新春を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。明るい見通しよりも、多事多難なニュースの日々ですね。今年は寅年で、特に2010年は干支の一つで、庚寅(かのえとら、こういん)の年。「庚」には継承・継続する、更(かわ)る等の意があり、一方、「寅」には約束する、協力するといった意があるそうです(フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』)。今年も紅梅会役員一同、「庚寅年」に相応しい時勢に即した同窓会事業に取り組んでゆきたいと思います。本年も、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

第175回福澤先生誕生記念会に出席:今年、福澤先生生誕175年です。先生は天保5年12月12日生まれ(陽暦1835年1月10日)、世は徳川幕府第11代将軍家斉の時代です。1月10日の記念式典(三田キャンパス)は幼稚舎生の「福澤諭吉ここに在り」、ワグネル・ソサィエティーによる「日本の誇」の合唱に続き、清家篤塾長の年頭の挨拶、橋本五郎氏(読売新聞特別編集委員)の記念講演「ジャーナリストの羅針盤」そして福澤家の福澤信雄氏の挨拶がつづきました。塾長は「①自分の頭で考える力:この大変化の時代には、多くの局面で既成の概念や古い思想は通用しなくなる。新しい状況を正しく把握し、自らのなすべきことを的確に選択していくためには、ますます大切になるのが自分の頭で考える力であること。②実学の精神の実践:実学は実際に役立つ学問というより、「科学(サイヤンス)」を指す(慶應義塾史事典)。実学とは自然科学のみならず社会・人文科学を含めた実証科学のことで、実際の行動に活かせるように学ぶこと。事物の真の姿を実証的な学問を通じて理解し、その理解に基づいて問題を解決していくことが求められている。大変革の時代に、この福澤先生の実学の精神に立ちかえり、学問を進歩させ、それに基づいて自分の頭でものを考えることのできる人材育成こそがなにより大切」と締めくくられました。

メインテーマ「今、実学を問うー歴史にみる看護教育実践活動ー」2010年9月19日(日)・20日(月・祝日)慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス・看護医療学部において日本看護歴史学会第24回学術集会が開催されます。会長は三上れつさん(慶應義塾大学看護医療学部教授)。1918年(大正7年)に誕生した慶應看護教育は、2001年の看護医療学部の開設を経て、今年92年を迎えます。慶應看護の歴史を探究し、学会に参加する全国の同窓生と人的、知的交流を図る良い機会ではないでしょうか。

それでは皆様、5月の総会でお目にかかれることを楽しみにしております。

## 秋号の主な内容

- ◆ 第67回紅梅会総会のご案内／報告 ..... 2ページ
- ◆ 世代をつなぐ「Link age」
  - 同窓生から聴いた保健師の仕事 ..... 4-5ページ
  - 特集 慶應看護のあゆみ(第3回目) ..... 6-7ページ
  - 同窓会だより ..... 8-9ページ

## 平成22年度(第67回)紅梅会總會のご案内

紅梅会準備委員長 進二 6回生 高橋 豊子

紅梅会同窓生のみなさま、お元気でいらっしゃいますか。紅梅会役委員会では、みなさまが少しでも總會に参加していただけるように、会場は昨年と同様のグランドプリンスホテル赤坂に致しました。

總會報告終了後の催しは、慶應義塾大学病院「メモリークリニック」の伊東大介先生に講演していただきます。先生は認知症診療に特化した専門外来で、物忘れなど認知症の中核症状を主訴とする患者を対象に、専門的な評価、診断、その後の治療や生活指導を行っています。

当日の講演では、クリニックの紹介とともに初期の認知症の兆候や予防法、治療の現状をわかりやすくお話して頂きます。講演後は、会員代表挨拶・乾杯の音頭に続き会食となります。

沢山のみなさまの参加をお待ちしております。

**日時** 平成22年5月9日(日) 午前10時30分開会 午後2時閉会  
(午前10時開場)

**場所** グランドプリンスホテル赤坂  
別館 5階ロイヤルホール  
〒102-8585 千代田区紀尾井町1-2  
TEL 03-3234-1111  
www.princehotels.co.jp/akasaka

会場への道順は別紙を参照して下さい。

### プログラム

- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 1. 開会の言葉 黙祷                                 | 5. 質疑応答                            |
| 2. 会長挨拶                                     | 6. 新旧役員挨拶                          |
| 3. 報告事項<br>看護医療学部現状報告<br>大学病院現状報告<br>役委員会報告 | 7. 講演<br>テーマ<br>「あなたのメモリー大丈夫?(仮題)」 |
| 4. 審議事項                                     | 8. 会員代表挨拶・乾杯<br>会食                 |
|   | 9. 閉会の言葉                           |

### 申し込みについて

\* 總會の出欠につきましては同封の葉書で、**4月16日(金)**までに返信下さい。参加の場合は、同封の振込用紙で**4月20日(火)**までに入金をお願いします。

\* 尚、付添の方の席をご用意させていただきます。また、実費(5,000円)で付添の方の食事のご用意も承りますので、同封の葉書の通信欄にその旨を記載し、入金をお願いします。

### 今宵も集うあの時の仲間達

**M**  
Tokyo Mita Club  
SINCE 1974

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1  
帝国ホテル本館地下1階  
TEL.03-3591-4228 FAX.03-3501-2877

東京三田倶楽部

<http://www.tmc.gr.jp>

### 日本看護歴史学会 第24回学術集会のお知らせ

テーマ「今、実学を問う  
—歴史にみる看護教育実践活動—」

会期：2010年9月19日(日)・20日(月・祝日)  
会場：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス  
会長：三上 れつ(慶應義塾大学看護医療学部教授)

\* 2日目の交流セッションでは「慶應看護の歴史」をとりあげます。紅梅会会員の皆様、ぜひご参加ください。

事務局：〒252-0883 藤沢市遠藤 4411 慶應義塾大学看護医療学部内  
e-mail:24rekishi@sfc.keio.ac.jp TEL&FAX：0466(49)6267



# 慶應義塾大学病院のトピックス

慶應義塾大学病院（看護部）は、文部科学省の平成21年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）において下記の3つの事業内容が選定され事業計画を進めています。

## 1. 看護職キャリアシステム構築

- ・大学病院と看護医療学部が連携し、高度先進医療に対応できるジェネラリスト・ナースの養成を効率的に行うための教育体制を開発・運営し、大学病院と学部の人材の有効活用を促進するシステムの構築。プラン全体を統括する「キャリア開発センター」を設置し、4つのワーキンググループがそれぞれプログラムを実施します。
  - ・「ジェネラリスト・ナース教育プログラム」
  - ・「臨床指導者の育成プログラム」
  - ・「キャリアパス構築」
  - ・「病院・学部人事交流」

## 2. 慶應義塾大学病院業務改善推進事業

- ・大学病院医師・看護師の負担を軽減するため、医師作業補助者等を配置することにより、大学病院の教育研究機能を向上させる。
- ・コミュニケーション能力やリーダーシップ、業務調整能力を有するリーダーークラークの養成。

## 3. 慶應義塾大学周産期医療環境整備事業（NICU等設置）

- ・東京都の慢性的なNICU不足の解消と慶應義塾大学病院の超過床解消を目的に、慶應義塾大学病院のNICUを6床から9床に増床、後方床のGCUを12床から14床に増床。
- ・施設の拡張と充実（設備・備品の購入）。

# 看護医療学部だより

短1回生 山岸 直子

看護医療学部には海外研修を行う選択科目が3つあります。今年度は30名以上の学生がこれらの科目を履修し、青田与志子記念教育研究奨励基金の支援を得て研修を行いました。今回は臨床看護実践(海外)についてご紹介します。臨床看護実践(海外)では、毎年約10名の4年生が8月に2週間、米国ミネソタ州のMAYO Clinicで研修を行います。MAYO Clinicは病床数2000床以上を有する最先端医療を提供する病院です。今年度は7名の学生が個々の課題に合わせ血液移植病棟や脳神経リハビリテーション病棟など様々な場所で研修を行いました。学生達は米国の医療事情と日本の現状を比較しながら、医療や看護の今日的課題について考えを深めていました。休日にはMAYO ナース宅へホームステイするなどアメリカ文化に触れる機会も得ていました。そして昨年11月に六本木ヒルズで開催されたSFC主催「Open Research Forum」と称する研究成果の一般公開の場で学びを発表しました。

また毎年秋にはMAYO Clinic ナースが来日します。昨年は3名が来日し看護医療学部信濃町キャンパスを訪問し、「Nursing Practices in the Coronary Care Unit: Making a Difference」というテーマで講演を行いました。これには学部生、大学院生、卒業生、慶應病院の看護師など多数が参加し、質疑応答も活発になされ有意義な時間となりました。学生達は海外の最先端医療や看護、文化に触れるという貴重な体験をとおり、多くの学びを得ています。



# メルボルン大学健康学講座・東京開催

全コース日本語通訳付「大学院コース」と「研修会」合同開催

オーストラリアのメルボルン大学はWHOの協力機関として「女性の健康学」の研究と教育をアジア諸国を対象として実施し日本人専用マスターコースは10年余にわたる実績のもと、多くの卒業生を輩出しています。



前列2名は紅梅會員です

開催日	開 催 日	教 科	授 業 料
平成22年5月	2日(日)～5日(水)	4日間 「加齢と女性」	2,850AD
平成22年8月	16日(月)～20日(金)	5日間 「ヘルスプロモーション」	5,700AD
平成22年8月	23日(月)～26日(木)	4日間 「生殖的健康と生殖的権利」	2,850AD
平成22年5月	1日(土) 15:00～17:00	「加齢と女性」	5,000円
平成22年8月	22日(日) 10:00～16:00	「英語によるウイメンズヘルスシンポジウム」	5,000円



<講 師> WHO協力機関メルボルン大学医学部大学院社会女性健康キイセンター教授陣  
 <申込み・お問い合わせ> 日本国内責任者：メルボルン大学大学院 女性健康学講座教授  
 医学博士 堀 口 文（産婦人科認定医・心療婦人科科専門医・同指導医・産業医）

E-mail [fumihori@kf6.so-net.ne.jp](mailto:fumihori@kf6.so-net.ne.jp) TEL 0285-20-5725 FAX 0285-20-5726  
 〒323-0031 栃木県小山市八幡町1-4-1 長福ハイツ301

AD=オーストラリアドル  
 自由参加者は40%割引

皆様もご存知の通り、保健師は、疾病予防と健康管理の分野を主に受け持ち、地域の人々が健康的な生活を送れるように、生活に密着した具体的な健康指導を行っています。時代の変遷の中で、保健師の担う仕事もさまざまに発展し、現在は高齢者の在宅ケアや生活習慣病対策、そしてエイズ予防など、活躍する場も拡大しています。今回は、地域、企業、学校で活躍されている同窓生をご紹介します。

## 保健師活動は法律と社会情勢等により大きく変化しています!! 68回生 小路 玉代

現在、熊本県立こころの医療センター（精神科病院）に勤務し2年目の精神保健福祉士を持った保健師です。厚生女子学院を卒業後、慶應病院で助産師業務を3年余り、その後、熊本県で保健師・助産師教育に10年、そして、保健師として県内5箇所保健所、県庁、県立精神保健福祉センターを経験後、現在の職場です。

保健師の活動は、度重なる法律改正等により業務内容が大きく変化しています。

地域保健法及び介護保険法の施行や精神保健福祉法の一部変更により、母子保健サービス等住民に身近なサービスは市町村へ権限移譲されました。また、地方分権一括法（平成11年）により、地方自治体の責任と権限が強化され、政策立案能力や実施能力が求められています。同年に「21世紀における国民の健康づくり」の一環として「第3次国民健康づくり対策」が実施されるなど、市町村主体の施策が推進されています。

そのため、「地域看護」は、従来の公衆衛生看護の保健サービスの提供を主体とし健康な地域づくりを目指した地域管理と組織内の業務管理機能が求められています。

特に地域診断、計画策定、サービスの提供・評価において、住民や様々な関係機関等と連携し協働で取り組む仕組みづくりや組織内の業務管理においては、組織運営・管理、情報管理、予算管理、人材育成等の機能が重要となっています。

市町村への業務移譲や市町村合併により保健所保健師は、少数で広域を担当する少数精鋭での活動となり、保健師全体の集団評価から、個人の専門家としての質が問われています。熊本県では、保健師数は減らずに、県庁（健康施策に影響する10課）に21名、その他出先機関に10名が勤務し、保健師の活動の場を広げ、人々の健康づくりを視点に置いた政策の企画等の保健師活動に新たなスキルと能力を発揮し活動しています。



▲筆者中央  
精神障がい者の社会復帰を支援するために取組んでいる精神保健福祉士の新進気鋭の集団です。病院の経営に大いに関与していると自負しています

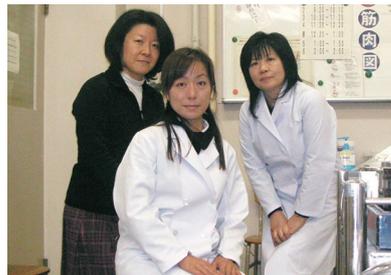
## 学校保健の現場から

86回生 玄葉 道子

学校の保健室で保健師として勤務し約10年が経った。学校という「生活」の場で、応急対応以外にも健康診断、健康相談などあらゆる健康管理業務に携わるが、最近はメンタルの問題もクローズアップされ、保健室の役割は多岐に及んでいる。

保健師は保健指導を専門とするが、それは単なる健康に関する情報提供ではなく、その人自身の行動変化につながるよう生活に密着したものが望まれる。そのための動機づけを伴う情報提供でこそ保健指導になりうるのであろう。

最近、保健室では具合が悪い生徒たちの生活状況に夜更かしや睡眠不足、朝食を抜くことが目立っている。「早寝早起き朝ごはん」などよく言われるが、それが良いであろう事はわかっている。しかし、いざ実行となると話は別である。クラブ活動や勉強、友達と過ごす時間や読書など、やるべきこともやりたいことも多く、睡眠時間を削ることになりがちとなる。朝すっきり起きられず朝食も食べず、だるさやイライラを引き起こしたり、元気に活動できるとはいいがたい状態が目につく。現代社会は、深夜でも明るく活動的で、太陽とともに生活するような環境ではないが、昼と夜があるように人間にも活動と休息が必要ではないだろうか。これから将来を担う子どもたちが、健康で活躍して欲しいと願う。そのためにも食事や睡眠という基本的な生活習慣をないがしろにせず、自分自身のこととして健康を育てて欲しい。子どもたちの成長していく時期に健康管理を通して関わっていきけることは私自身の励みにもなる。将来的に彼らの心身の健康に繋がることを目指し、微力ながらここにいる子どもたちへ保健指導を続ける。



▲筆者中央

現在私は箱根町健康福祉課で保健師として勤務しています。箱根町は言わずと知れた国際観光地として有名ですが、人口はわずか1万3千人ほどで、日によっては町民より観光客の方が多いという小さな町です。町役場に保健師は、私を含めて7人だけ。当町は業務分担制で分散配置型なので、ひとりで様々な保健事業を担当しなければならず少々大変ですが、この『小さな』ところに、私は魅力を感じています。

私が勤務地として箱根町を選んだ理由は、『住民の顔がみえる』保健師の仕事をしたかったからです。箱根で働き始めて1年半経ちますが、講演会や老人会への出張健康相談などを通じて、少しずつ町民に顔をおぼえてもらえるようになりました。「保健師さんいる？」ではなく「関口さんいる？」と相談のために名指しでご指名いただくことも増えてきました。私も相談者の状態や経過を把握しやすく、なにより住民との身近な関わりがもてることにやりがいと楽しさを感じています。

私の担当業務は健康増進・介護予防事業全般ですが、その中で最も大きな割合を占めているのは、がん検診です。通年の事業なので事務作業を含めるとたくさんの仕事がありますが、特に精密検査対象者への受診勧奨に力を入れています。私は前職で1年間病棟勤務をしていた経験があり、がんに苦しみながらも戦う患者・家族と関わってきました。そこで出会い、中には亡くなられた患者・家族との関わりを、私は忘れられません。がんに苦しみ、泣き、亡くなる方を一人でも減らしたい。その思いが今の私の原動力になっています。

まだまだ保健師として未熟者ですが、今後は保健事業を看護医療学的側面からだけでなく、経済学など様々な側面から事業を策定、実施、評価し、対象となる方だけでなく社会的にも意義があると広く認知されるような保健事業を、住民のニーズを反映させながら展開していきたいと思っています。

## 産業保健師の仕事～充実した支援を提供するために～

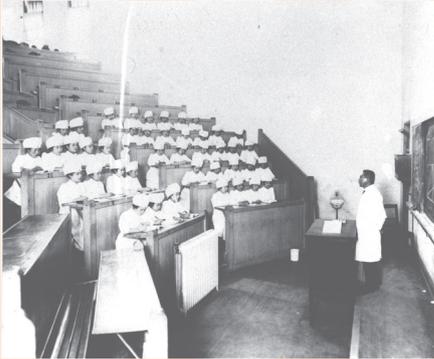
人間の一生において、成人期から生活に加わる“働く”という行動。この行動は日常に溢れていますが、人々に与える身体的・精神的な影響は計り知れません。私は健康面において、労働者に何か力になれることはないかと考え、一人ひとりの職業人生に長期的に関わることができる、産業保健師の道に進むことを決めました。

現在私は、某銀行の健康開発センターで勤務しており、労働者800人程度を受け持っています。業務内容は、健康診断の実施や事後措置、職場巡回、特定保健指導、インフルエンザ対応、メンタルヘルスの健康相談等です。私はこれらの業務をより充実して機能させるためには、医療者と労働者が心的距離を縮め、医療者を身近な存在、つまり“悩みを気軽に相談できる相手”として認識してもらう必要があると感じています。

業務の中でも、メンタルヘルスにおいては特に上記のことを痛感します。なぜなら、相談を受けられたことで、受診につながったケースが多々あるからです。しかし、中には職場の医療者に相談をすると自分のキャリアが汚れてしまうと考え、悩みを一人で抱え込み、悪化させてしまう人もいます。このような誤った認識を改善させ、早期発見・対処を図っていくためにも、早い段階で医療者に悩みを表出できるような環境づくりをしなければならないと思うのです。その一歩として、私は職場巡回時に、健診結果の異常あり・なしに区別なく全員と面談を実施するようにしています。また、相談を受けた個人情報には守られることを伝え、本人の意と反して情報が他者（上司を含む）に提供されることはない約束します。

自分を頼ってくれる人がいる。これは、保健師冥利につきるといっても過言ではありません。心的距離を縮め、信頼関係を構築するためにも、“相手の心を聴き取り、心を語ってもらえるようなコミュニケーション”を大切にしながら日々邁進していきたいと思っています。



(西暦年)	慶應義塾の150年	慶應看護の90年
一八五八	開塾・福沢諭吉により蘭学塾を開く	
一八六八	塾を「慶應義塾」と命名、近代私学として新発足	
一八七二	三田に移転	
一八九〇	大学部発足・私立として最初の総合大学となる	
一九〇一	創立者福沢諭吉先生死去	
一九一七	医学科予科の授業開始	
一九一八		
一九二〇	大学令による大学として新発足	
一九三二		
一九三四		
一九四一	新塾歌制定	産婆養成所開設
一九四四	工学部増設	紅梅会発足
一九四五	焼失 四谷医学部空襲により	医学部附属看護婦産婆養成所と改称
一九五〇		慶應医学部附属厚生女子学院と改称
一九五二	慶應義塾が学校法人となる	
一九五二	新制大学医学部発足	医学部附属看護婦学院設置
一九五四		
一九五七		商学部増設

## 慶應義塾看護教育のあゆみ

60回生 花岡 真佐子



現：北海道医療大学看護福祉学部 教授

私は昭和51年(1976)4月に厚生女子学院の専任教員助手として採用され、看護基礎教育に携わり33年目に至ります。厚生女子学院時代(12年間)で特に記憶に残る事柄は2つあります。

その1つは新任教員の研修制度(2年間)です。私の記憶によりますと、当時の教務主任であった大橋優美子先生(39回生)が医学部に要請し、新任教員が看護教員として自立するための制度を実現したと伺いました。昨今、新任看護職の研修制度は当たり前ですが、看護職であれば教育は誰でもできると思われていた時代に、新任教員の研修制度は画期的な試みでした。私の場合、佐藤芳子先生(43回生)が指導者となり、文献講読、授業案作成と実践、臨床実習指導の経験を通して、学生さんに何をどのように教えたらいかがを考えた1年間です。研修2年目は、日本看護協会の看護研修学校あるいは文部省主催の看護教員講習会で看護基礎教育の概要を学びます。私は茶園美香さん(66回生)と一緒に、東京大学の構内で開催された看護教員講習会に参加しました。看護系大学の教授陣による講義や千葉大学看護学部の施設見学、全国各地から集まったエネルギッシュな方々とのグループ・ワークを通して、看護教育には何事にも立ち向かう情熱と意思が必要であると学びました。この研修制度は5年間ぐらいで終了しますが、新任教員の研修プログラムは看護短期大学でも継続されました。

記憶に残る2つ目の事柄は、看護学総論分科会の設立です。昭和52年(1977年)に専修学校として認可され、厚生女子学院は看護専門課程の本科、進学科一部、進学科二部としてスタートしました。カリキュラムは基礎科目と専門科目に区分され、看護学は看護学総論、成人看護学、小児看護学、母性看護学の4領域に分かれていました。3領域は実務経験によって専門性が重視されましたが、看護学総論領域は全員で企画・運営する体制でした。私の担当は単元「活動と休息」「排泄」ですから負担感は少ないのですが、授業を重ねるにつれて「みんなで渡れば恐くない看護学総論」から脱皮したい、と思うようになりました。看護学全般の基盤となる領域だからこそ、講義・演習・実習を一貫性のある教育内容にしたい、という野望です。そこで、上司に相談したところ賛同を得たので、希望者を募り、昭和57年(1982年)に看護学総論分科会を立ち上げました。メンバーは看護概論担当の大橋優美子先生(教務主任)、看護技術を担当する吉田博子さん(38回生)、大本ゆみ子さん(50回生)、小川みち子さん(60回生)、花岡真佐子の5名です。後にメンバー交代で実川恵子さん(72回生)、浅田頼子さん(68回生)、三上れつさん(60回生)、中村真澄さん(79回生)が看護学総論の企画と運営に精力的にかかわり、看護短期大学の基礎看護学領域の構築に貢献しました。

2008年、慶應看護は90年を迎えました。そこで90号より5回シリーズで慶應看護のあゆみを掲載しています。第3回は1971年～1990年頃の慶應看護教育に関連した内容です。

一九六〇	一九七二	一九七四	一九七六	一九七七	一九七八	一九八一	一九八三	一九八七	一九八八	一九九〇	一九九二	二〇〇一	二〇〇四	二〇〇五	二〇〇七	二〇〇八
		伊勢慶應病院開院		月ヶ瀬リハビリセンター 開設		理工学部新設	慶應義塾創立125年 記念式典	大学病院新棟開院		ニューヨーク学院 開校	湘南藤沢中等部・ 高等部開校		法科大学院開設			創立150年記念式典挙行 共立薬科大学との合併
医学部附属看護婦学院廃止。 准看護婦の進学コースとして 別科課程設置	大学病院附属看護婦学院 (准看護婦の夜間進学コース) 設置		大学病院附属高等看護学院 廃止、厚生女子学院に合併し 厚生女子学院に二部課程設置	厚生女子学院が専修学校となる (本科・進学科一部・ 進学科二部)	厚生女子学院60周年記念式典 厚生女子学院進学科一部廃止		厚生女子学院進学科二部廃止		慶應義塾看護短期大学開校 新校舎竣工→移転(現孝養舎)	厚生女子学院廃止		看護医療学部開設		大学院健康マネジメント 研究科(修士課程)開設	大学院健康マネジメント 研究科(博士課程)開設	
<b>今号特集</b>																

## 懐かしき厚女時代 ～純粋な乙女たち～

84回生 伊藤 真美



厚生女子学院と聞いてまず頭に浮かぶのは、レトロな薄水色の木造校舎です。歩くと鳴る床板、すさまじい風や砂埃が入り建てつけの悪い木製の窓枠。「うなぎの寝床」と呼ばれた縦長の教室で、八十数名の学生が一緒に授業を受けました。「ここは、もし火事になったら三分で全焼です。」という言葉に衝撃(笑撃?)を受けたものですが、私は可愛い外観が好きでした。

私達の学年がその校舎で学んだのは、確か一年余りだったと思います。その後、慶應病院新棟建設のため取り壊されたので、私達は医学部の校舎等を転々としながら「大学生気分ね。」と楽しんでいました。

学生生活はと言えば(今でもそうでしょうか)、膨大な教科・試験にアップアップしながら必死に講義を受け、その合間を縫って信濃町駅前にホットケーキを食べに行ったり、サークル活動やアルバイトをしたり、慶早戦(試合が三日間にもつれると休校になるので祈りながら)の応援に行ったり、女子ばかりなので恋バナに花を咲かせたりして青春していました。

あとは文字通り「泣きながら」の病棟実習。厳しいスタッフや先生の指導の下で、仲間と廊下ですれ違うたびにアイコンタクトをしたり、物陰で「頑張ろうね」と手を握り合ったり・・・一年間同じメンバーで泣き笑いしながら実習した仲間はまさに同志で、一般の学生よりも結びつきが強かったと思います。

また、厚女は先輩方が素敵でした。入試の時にメッセージ付きのキャンディーを配ったり、入学前に学校紹介のマップ付きの手紙を送ったりして下さり、入学してからも(過去問も含め)いろいろと親切に教えて下さいました。教務の先生方もとても熱心で、時には実習中に一緒に悩んだり、かばって下さったり、遅くまで残って親身になって指導して下さいました。

私にとって厚女で学んだ三年間は、ちょっぴり甘酸っぱくほろ苦く、でもとても充実した日々でした。今でも同窓会や紅梅会の会報などで、同期・同窓の方々のご活躍を知るにつけ、とても嬉しく懐かしく、そして誇りに思いパワーをいただいています。

私は慶應病院退職後(約5年間在職)、育児をしながらパートでクリニックなどに勤めてきましたが、昨年秋より健診センターでフルタイム勤務を始めました。今後も看護の道からは、離れられそうもありません。同窓の皆様とともに、慶應卒の名に恥じないよう頑張っていきたいと思います。



▲厚生女子学院 玄関前



▲校舎と中庭

今回私は取材を兼ね、34回生久保様のお宅へお邪魔させていただきました。美味しいお食事を頂きながら伺う、大先輩のお話は驚きの連続で、時の経つのも忘れるくらい楽しいひと時でした。久保様はじめ、42回生熊崎様、短6回生水口様、松下様、加藤様、ご多忙中にも関わらず快く執筆をお受け下さいまして、本当にありがとうございました。(編集委員 上野八重子)

## 34 回生の同級会便り

34 回生 久保 洋子

私達34回生は看護婦産婆養成所の最後の生徒で、下は15歳から上は25歳まで、日本国中から80名入所しました。昭和27年の卒業生は72名位だったと思います。入所してから今年で60年、当時15歳だった少女も75歳の後期高齢者となりました。その間、鬼籍に入られた方は11名となり、年々寂しさを感じずにはられません。私達34回生の同級会は1回目を昭和29年、当時あった東寮で行いました。その6年後、昭和35年に2回目の会が行われて以降は4年に1回、3年に1回、2年に1回の頻度で日帰りで開催して参りました。54年からは2年に1度、一泊で集まるのが定例となり、平成13年からは場所を熱海に定め、毎年20名程が集まっております。それも今年で24回目を迎えました。毎年幹事を決めて行って参りましたが、小菅さんにはクラス会の通信費・会計係として長きに渡りご尽力頂きました。34回生の同級会がこうして続けて参れましたのも一重に皆様のご協力あってこそ、と思っております。集まれば寄宿生活4年間の食事の貧しかったこと(鯨肉、アメリカの小豆だけのご飯の代用品の話など)12畳に9~10人も起居していた寮生活、3年生の実習で夕方6時~朝8時まで2交代の一人夜勤、17~18歳で患者さんを30名近く見回っていた事など、よく頑張って実習したね、と思ひ出話は尽きることがありません。そんな私共も寄る年波には勝てず、年々出席者が減っていくと思いますが、皆様にはできる限りの再会を願って止みません。現在の医学は私共が学んだ頃とは格段の差があり、看護師の社会的地位も向上しております。また、一方で医療を取り巻く情勢は年々厳しくなっていると聞き及んでおりますが、紅梅会の同窓生として後輩の皆様には、いつの世もナイチンゲールの精神を忘れることなく、病める方々の看護に従事して頂きたいと切に願っております。



▲筆者 前列中央

## 集い続けて50年!

42 回生 熊崎 澄子

永い様で短い時間の流れでした。卒業当時、誰からともなく「年1回のクラス会を続けていきたいですね!!」という発言が欠けることなくここまで永續するとは、誰が想像できたでしょうか。故郷へ帰省された方々にとって年1回のクラスメートとの再会は、学び舎の思い出の地、都内で主に行われていますが、時には秋田在住の方の案で、穏やかな時間の流れる東北への旅を満喫されたこともあった様です。また、鎌倉在住の方の案で「釈迦堂庵鎌倉古今坊」という和洋折衷の雰囲気あるレストランで行われたこともありました。趣向に富んだ季節の創作料理に舌鼓を打った思い出は、今も懐かしく味覚に残っております。昨年(平成20年)には50周年という節目のクラス会に、お世話になりました大竹政子先生、福岡康子先生をお迎え致しました。お変わりのない両先生のお姿に、50年前にタイムスリップしたかの様な、楽しい時間を過ごさせていただきました。その席で42回生の誇りとするお一人、岡田直子さんが、平成18年11月3日に「瑞宝単光章」を受賞された事を、皆さんでお祝い致しました。こうした年1回のクラス会の思い出は尽きることがありません。最後に、個人的な話しになりますが私は現在、介護福祉施設の一環「デイサービス」にパートとして勤務致しております。介護保険導入以来、このような施設は定年を迎えた我々の、第2の職場となるのではないのでしょうか。今まで培った看護技術を、体力の続く限り必要としている方々へ提供し、お役に立つことができたならそれは自分自身の幸せに繋がると感じています。最後にこの場をお借りして、42回生の皆様のクラス会に寄せる情熱にエールを送らせて頂くと共に、今後の皆様への期待を込めて!!ペンを置く事に致します。



▲筆者 後列右から3人目

## 短大6回生の同窓会便り 短6回生 水口 由美 松下 秀美 加藤 貴美代

2009年10月25日(日)、短大6回生の同窓会を丸の内ブリックスクエア(2009年9月オープン)にある地中海料理「アンティープ」で開催いたしました。短大6回生は今年35歳、育児真最中の人が多く、新型インフルエンザが日本列島で猛威をふるっている中での開催は、当日欠席者が多く出ることが心配でした。が、当日は学生の頃と変わらないくらい皆元気いっぱい、総勢43名で開催することができました。

今回の同窓会は卒業して14年目にして初めての同窓会。数年前から同窓会を開催したいという声をあちこちから聞いておりましたが、幹事の重い腰がなかなか上がりず、今年まで先延ばしになっていました。看護師として人間として無我夢中に走った20代をとうの昔に過ぎ、30代を折り返した今年、一緒に看護師を目指し学んでいた皆はどういう活躍をしているのだろうか、そんな思いが胸に去来し、今回の同窓会開催に至りました。

5月頃から準備をはじめ、開催までに一番大変だったことは、同窓生の連絡先を確認すること。結婚、出産&育児、転職、Uターン、海外転勤…。大きなライフイベントを現在進行形で歩いている世代なので、連絡先がわからなかった人も多くいましたが、皆の協力により名簿を更新することができました。

当日は、お店の人のご好意で、私たちの同窓会のために特別コースメニューをご提供いただきました。「アンティープ」は歴代3代に渡る米国大統領就任パーティーでその腕をふるったというシェフがプロデュースするグリル料理で有名なお店。メインのお肉、お魚をはじめ、食べる直前に手打ちするというパスタも絶品。料理を口に運ぶ度にその美味しさに笑顔がこぼれ、会話も一層弾みました。

会の終盤には一人ずつ近況報告を行いました。看護師になるために共に実習に励んだ慶應病院で引き続き勤務している人、診療所や企業で看護師として活躍する人、訪問看護ステーション所長として在宅療養を支えている人、助産師として女性の一大ライフイベントを支えている人、更なるキャリアアップに向け大学院進学の人、教員として看護の発展・学生指導に励んでいる人、政策立案現場で制度の面から看護の発展に取り組んでいる人など、それぞれが自身の道を着実に歩んでいる姿がとても印象的でした。

30代後半、ライフスタイルや役割の変化が激しく、迷いや日々の疲れなどを感じることも多いですが、同窓生の生き活きとした様子や活躍を知り、非常に大きな力をもらえました。出席した同窓生たちからも「良い刺激をもらいました」「私もいつか看護師として復帰しようと改めて思いました」という声を数多く頂き、幹事としても嬉しい限りです。次回はお世話になった先生方にもお声をかけ、5~6年後に開催したいと思っています。次回の同窓会で皆の活躍を聞くことを楽しみに、私達も一日一日頑張りたいと思っています。



## 同窓会・同級会だより原稿募集！！

今後、「同窓会だより」は毎春号でご紹介させて頂く予定です。同窓会・同級会を開催していくコツや久しぶりの級友との再会場面など、このページを通じて同級会開催のきっかけになり、会員同士のつながりが深められることを期待しています。

毎年開催される紅梅会総会の日に同級会を企画している学年もあると伺っています。今年、同級会を企画される会員の皆様、是非その同窓会・同級会の模様(原稿)をお寄せ下さい。

## 社会福祉法人 賛育会 賛育会病院

後輩のみなさん お待ちしています

### 看護師 募集中

看護部理念 「あたたかく 心 よりそう 看護」

地域密着の総合病院で、やりがいを見つけませんか？

詳しくはWEBで

賛育会病院

検索



東京都墨田区太平3-20-2 病院見学受付中  
TEL03-3622-9192 総務・人事課 直通 お気軽にお問い合わせ下さい

63回生



看護部長  
武田 美代子

67回生



医療安全管理科長  
山本 節子

### 病院の概要

- 病床数 243床
- 看護体制 一般病棟入院基本料 10:1
- 診療科
  - 産婦人科 内科 小児科
  - 新生児科 外科
  - 整形外科 ころのケア科
  - 耳鼻咽喉科 眼科
  - 皮膚科 泌尿器科
  - 緩和ケア科 麻酔科

# 紅梅会ホームページリニューアルしました！

2010年2月、ホームページをリニューアルしました。みなさんに紅梅会の活動状況や情報をタイムリーにお届けし、その活動への関心を高めて頂けるよう、また会員の皆様の親睦や慶應看護の発展に貢献できるよう、内容を充実させました。簡単により見やすくするために、デザインも一新しました。是非ご覧ください。

ホームページ委員長 学1回生 田中 喜子



## ホームページの内容(一部)

- 紅梅会や慶應看護の歴史の紹介
- 150年記念事業について  
～ナースリカちゃんの販売情報～
- 総会や研修会のお知らせ・報告
- 会報
- 会員インタビュー

## ホームページアドレス

<http://keio-koubaikai.jp/>

ご意見やご要望などありましたら、  
紅梅会事務局までお知らせください。

などです。

## 紅梅会研修会を終えて

研修委員会委員長 短3回生 高田 幸江

紅梅会同窓生のみなさま、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。秋晴れの連休初日の土曜日にもかかわらず、52名の参加者を迎え、11月22日に第32回紅梅会研修会を開催いたしました。

本年度は看護医療学部専任講師、朴順禮（パクスンレ）先生を講師にお迎えし、「こころの負担を軽くしてみませんか？ つらい気持ちを楽にするちょっとしたコツ」というテーマでご講演を頂きました。講演会は、60分の講演に続き約20分のリラクゼーションエクササイズの実験で構成されました。講演においては、自分自身の陥りやすい考え方のくせを知り、その考え方のくせが自分自身のストレスをためる原因になっていることを気付かされました。その上で楽になる考え方のコツを具体的にお話し頂き、最後に身体の緊張を解きほぐす「リラクゼーション技法」を参加者全員で体験しました。深呼吸を行いながら筋肉の緊張を和らげる方法を実践しました。心なしか研修会終了後には参加者の表情も和らいだように感じられました。ストレスの多い毎日ですが、同じ現象であっても見方（捉え方）を少し変えるだけで自分自身も楽になれる事を知り、そのことで周囲の人々へもプラスの影響を与えるのではないかと感じられ、有意義な講演会となりました。

また、研修会終了後にアンケートを実施致しましたので、その結果を踏まえ、今後も皆様のご期待に添えるテーマを検討し、研修会を計画していきたいと考えております。



## もう一度、慶應病院で働いてみませんか？

慶應病院では

- NICU病棟の増床
- 3人以上の夜間看護体制を維持するため看護師を募集しています。

小児科の経験を生かして働きたい

育児中のために9時～15時位なら仕事したい

あなたのライフスタイルを応援します！

救急外来なら勤務してみたい

プランクがあるので心配。大丈夫かしら！

大学進学中のため土・日曜日なら勤務したい

手術室なら勤務してみたい

慶應義塾大学病院 看護部長室

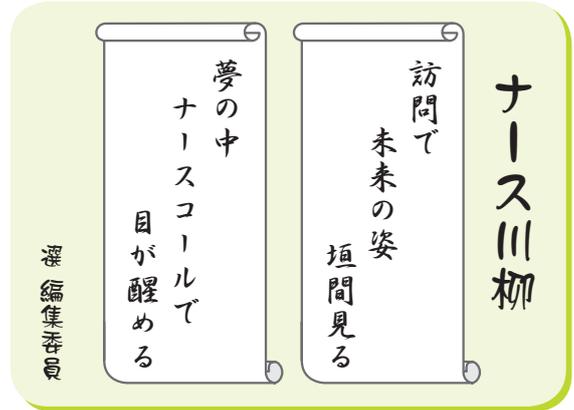
TEL 03-5363-3719(直通) FAX 03-5363-3720 <http://www.hosp.keio.ac.jp/kango/> ぜひ、ご覧ください。お待ちしております。

17回生 佐藤 泰子(旧姓沢田) 平成21年10月14日  
 17回生 小林 なお(旧姓田村) 平成22年 1月20日  
 20回生 岸 まさ子(旧姓松本) 平成20年 9月16日  
 21回生 城取八重子(旧姓石上) 平成20年  
 61回生 木村 民江(旧姓野田) 平成20年 5月10日  
 67回生 菱田 幸子(旧姓佐藤) 平成22年 1月26日  
 ご冥福をお祈り申し上げます。

世代をつなぐ「Link age」特集 慶應看護のあゆみでは、1988年から2001年までの看護短期大学開校から看護医療学部開設までの慶應看護の発展の様子を掲載する予定です。紅梅会会報は会員の皆様のご意見を反映していきたいと考えています。寄稿して下さる方は、紅梅会事務局までご連絡ください。

## 広告掲載募集

広告を募集しています。紅梅会会員の場合、名刺サイズ1枠(5.5cm×9.0cm)5,000円、2枠10,000円とさせていただきます。読者(会員)にとってより身近な医療・看護関連の広告をご提案できればと考えています。広告掲載のお申込・お問い合わせは、紅梅会事務局までお願い致します。この会報(広告)は、紅梅会のホームページにも1年間掲載されます。(この広告掲載の基準は2010年1月末日のものです)



## 慶應義塾150年記念事業支援委員会より

150年記念事業支援委員長 60回生 三上 れつ

91号会報で慶應ナースリカちゃん人形の在庫をご報告致しましたが、11月までの半期で、人形87個、ストラップ128個の売り上げがありました。現在、木村チヅ子看護部長(66回生)のご協力を賜り、病院の総合案内でも販売を始めました。売り上げは全額、信濃町新病院棟建設の寄付金にすることで、病院経営企画室にも多くのご支援をいただいております。また、病院地下にある宮田商店でも販売を行っております。販売ルートにつきましては、この他にもいくつか検討・交渉中です。引き続き、良案がございましたら、委員会までお知らせください。皆様のさらなるご協力をよろしくお願い申し上げます。



郵便またはFAXでお申し込みの方は下記の用紙をご利用下さい。

キ リ ト リ

紅梅会事務局：〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35 孝養舎内  
 TEL&FAX 03-3341-8116

◇◇◇宅配便の代金引換にてお送りいたしますので、電話番号は必ずご記入下さい◇◇◇

回生	回生	会員・会員外	(ふりがな) お名前	
ご住所	〒	-		
			TEL	( )
お申込	商 品 名		個 数	代 金
	慶應ナースリカちゃん人形		5000 円	個 円
	慶應ナースリカストラップ		1000 円	個 円
	合 計		個	円

◆「特選塾員推薦」受け付けについて

平成13年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生の方も、特選塾員となることができるようになりました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。

具体的には、

- ①評議員選挙権の取得      ②慶應義塾大学図書館の利用      ③慶應カード入会可能
- ④慶應オンラインの利用可能      ⑤慶應維持会（慶應義塾に寄付した人の会）入会

などがあります。

紅梅会会長推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は下記の内容を明記して、紅梅会事務局までハガキまたはファックスでお送り下さい。

今回申し込みをされた方は、9月末に推薦書を塾監局に送付しますので、11月末頃の決定通知となります。なお不明なことは事務局までお問い合わせください。

- |               |         |              |        |
|---------------|---------|--------------|--------|
| 1. 氏名(楷書で正確に) | 2. ふりがな | 3. 生年月日      | 4. 現住所 |
| 5. 電話番号       | 6. 勤務先  | 7. 回生または卒業年月 |        |

《参考》慶應カードの特典

- ・ 提示により図書館利用      ・ 講座授業料の割引      ・ 外国語学校授業の授業料割引      ・ 慶應グッズの割引
- ・ 赤倉山荘の利用      ・ 大学やコンサートにご招待      ・ 義塾出版物の割引

◆連絡先変更時のお願い

ご住所等に変更があった場合は、お手数ですが、必ず事務局までご一報下さい。終身会費をお納め頂いても返送され、会報をお届けすることができません。また、年会費を二年間滞納されますと会報発送を中止させて頂いておりますので、お忘れなくお払い込み下さいますようお願い申し上げます。また、学部卒業生の方で終身会費未納のまま2年経過しますと、同様に会報発送を中止しておりますので、是非会費の納入をお願いいたします。

事務局は原則として下記の日時に開けておりますが、諸事情により不在のこともございますので、あらかじめご了承下さい。なお、不在の場合は留守番電話に、回生、お名前、用件をお残しください。折り返しご連絡いたします。

事務局

在室時間

月・木曜日11時～17時 ※8月は夏休みとなります。

直通電話・FAX：03-3341-8116

浅田 頼子（68回生）

編集後記

第92号会報はいかがでしたか？

皆様のご協力により、無事発行することができました。突然の原稿依頼にも快く応じて下さった同窓生の皆様、どうもありがとうございました。Link ageには、幅広い年代の同窓生の皆様より原稿を寄せていただき、感謝しております。また、特集「慶應看護のあゆみ」の編集に当たり、恩師の花岡先生と電話とメールでお話させていただくことができました。遠く北海道の地で、お元気で活躍されている様子が伺え、当時の様子がよみがえって来ると同時に、学生の時には知る由も無かった先生方の思いに触れることができました。今日の慶應看護は、沢山の先輩方の絆と情熱に支えられていることを実感しています。

編集委員会では、今後も紅梅会同窓会活動の情報発信と会員の皆様方の世代を超えたネットワーク作りの一端を担えるものとなるように、会報作りに取り組んでいきたいと考えております。

皆様からのご意見ご要望、感想をお寄せ下さい。

編集委員 新見 たづる

オレオレ詐欺にご用心

最近、海外在住の方の留守宅や、実家の方へ「医療事故等を起こした。示談にするため」などと言葉巧みに電話があり、オレオレ詐欺に類似した未遂事件の連絡がありました。

会員の方におかれましては被害にあわれませんようお気をつけいただき、留守宅やご実家の方々へもご注意ください旨、お知らせください。また、平成16年に発行いたしました名簿をお持ちの方は、個人情報の流出になりませんよう十分な管理をお願いいたします。

